



自然教育園ゲンジボタル復活プロジェクト



奇跡の“ゲンジボタル”

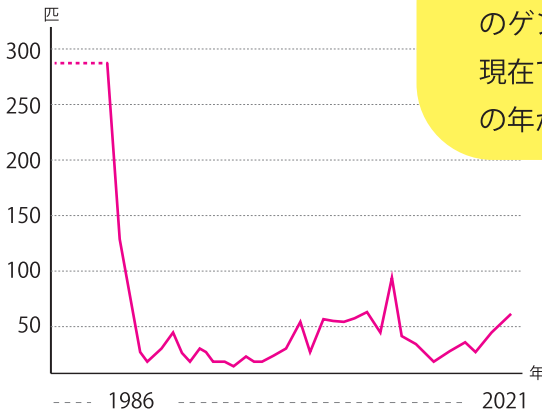
自然教育園には、今なおゲンジボタル※が奇跡的に生息しています。

最近の遺伝子解析により、東日本系統C型であることが解明されたことから、昔から自然教育園に生息している野生のゲンジボタルである可能性が高まりました。

※ 東京都23区内では絶滅危惧種

自然教育園のゲンジボタル、絶滅の危機!?

自然教育園のゲンジボタルは、近年、生息する環境の悪化等により、絶滅の危険性が高まっています。



1986年には、最多の281匹のゲンジボタルを確認しましたが現在では50～60匹、と低水準の年が続いています。

このままでは
絶滅してしまうかも
しれません!

ゲンジボタル最大個体数の変化(1986～2021年)

*1985年以前は、調査の頻度が少なく最大個体数の詳細は不明

参考文献

矢野亮. 2018, 自然教育園におけるゲンジボタル40年間の観察記録, 自然教育園報告, (49) : p 1-22

鈴木浩文. 2021, 国立科学博物館附属自然教育園におけるゲンジボタルの遺伝子解析, 自然教育園報告, (53) : p 1-5

ゲンジボタル復活に向けた環境整備

ゲンジボタルが生息する沢には、都内では希少なトンボであるオニヤンマも生息しています。

環境整備を実施するにあたっては、ゲンジボタルを増やすだけでなく、オニヤンマの保全も重要です。

そこで、現水路はオニヤンマの保全のために現状のまま残し、新たにゲンジボタルの生息に理想的な水路を整備する計画です。



ゲンジボタルの飛翔 (イメージ)

みんなの力でゲンジボタルの復活を！

お振込
募金箱

ご寄附のお願い

みんなの力でゲンジボタルの復活を！

国立科学博物館附属自然教育園に生息し、絶滅の危険性が高まっている
ゲンジボタルの保全のために、新水路を整備します。

新水路の整備や調査研究のための活動資金

目標金額 **500** 万円



● 皆様のご協力をお願いいたします ●

ご賛同いただける方はお気軽に下記までお問合せください。

*お振込みいただく際、国立科学博物館は「独立行政法人」の指定を受けておりますので、
ご寄附をいただいた場合、損金算入または所得控除が認められています。

?

ご寄附に関するお問合せ

独立行政法人 国立科学博物館附属自然教育園

☎ 03 - 3441 - 7176

2022年7月

天然記念物及び史跡

科博 自然教育園